

2022年12月22日

報道関係者各位

株式会社 I H I  
三菱地所株式会社  
鹿島建設株式会社  
株式会社神戸製鋼所

## 削減率 100%の低 CO<sub>2</sub> 高炉鋼材”Kobenable Steel”の使用について ～(仮称)豊洲 4-2 街区再開発計画 B 棟～

このたび、株式会社IHI(社長:井手 博)、三菱地所株式会社(社長:吉田 淳一)ならびに、鹿島建設株式会社(社長:天野 裕正)は、株式会社神戸製鋼所(社長:山口 貢 以下、神戸製鋼)が日本で初めて商品化した低 CO<sub>2</sub> 高炉鋼材 ”Kobenable Steel” を、「(仮称)豊洲 4-2 街区再開発計画 B 棟(東京都江東区豊洲)」(以下、本物件)(※1)の新築工事に使用することといたしました。

現在、カーボンニュートラルの実現は世界共通の目標となっており、超高層ビルにおいても脱炭素化に向けた取り組みが求められています。中でも、建設工事の建材由来の CO<sub>2</sub> 排出削減はサプライチェーン全体で取り組むべき分野であり、ビルに使用される鉄骨についても製造時の CO<sub>2</sub> 排出量が少ない製品へのニーズが高まっています。

”Kobenable Steel”は、神戸製鋼独自の高炉向け CO<sub>2</sub> 低減ソリューション(※2)を活用することで、従来の品質を維持したままで、低 CO<sub>2</sub> 鋼材の提供を可能とするものです。本物件の鉄骨の一部に、”Kobenable Steel”を使用することにより、建材由来の CO<sub>2</sub> 排出の削減に寄与します。なお、本物件では、製造時の CO<sub>2</sub> 排出量をマスバランス方式(※3)により 100%削減した Kobenable Premier を使用する予定です。

私ども4社は、持続可能な開発目標(SDGs)を支援し、”Kobenable Steel”を通じて、「つくる責任、つかう責任」を踏まえ、「住み続けられるまちづくり」への貢献を意識し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

### (※1)(仮称)豊洲 4-2 街区再開発計画 B 棟 事業概要

豊洲二・三丁目地区における最後の大規模再開発として、地域の皆さまに愛され、豊洲エリアに新たな魅力を創出することで、エリア全体の価値向上を目指します。

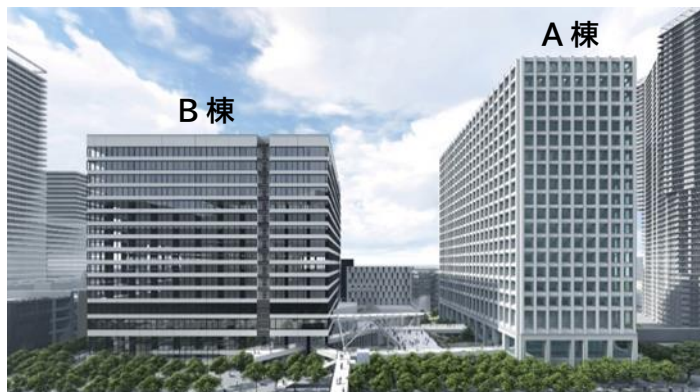
事業者:株式会社 IHI、三菱地所株式会社

設計者・施工者:鹿島建設株式会社

所在地:東京都江東区豊洲二丁目 14-2,4,5

スケジュール:2022年7月着工、2025年6月竣工(予定)

建物用途:事務所、インキュベーション施設、店舗、シェア企業寮、駐車場



## (※2) 神戸製鋼独自の高炉向け CO<sub>2</sub> 低減ソリューション

エンジニアリング事業のミドレックス技術(天然ガスを使った還元鉄製鉄法であり、世界の約 80%(還元鉄全体では約 60%)を占めるリーディングプロセス。製鉄工程での CO<sub>2</sub> 排出量を 20~40%抑制できることなどが特長。)を用いて製造した HBI(熱間成形還元鉄)を加古川製鉄所の高炉に多量に装入することで、高炉からの CO<sub>2</sub> 排出量を大幅に削減できる技術。

**神戸製鋼の独自CO<sub>2</sub>削減ソリューション**

- 高炉でのCO<sub>2</sub>排出量の削減には、還元を使用するコークスの削減が有効です。
- 神戸製鋼は鉄鉱石の一部を既に還元済みの鉄鋼原料である「HBI」に置き換える事で使用コークスを減らし、**高炉でのCO<sub>2</sub>排出の約20%低減**に成功しました(従来技術比約2倍の削減量)。



## (※3) マスバランス方式

製品の製造工程において、ある特性(例:低 CO<sub>2</sub> 品)を持った原料とそうでない原料とが混在する場合に、その特性を持った原料の投入量に応じて、製品の一部に対してその特性を割り当てる手法。

<Kobenable Steel 商品商標>



<問い合わせ先>

※物件についてのお問い合わせ

株式会社 IHI コーポレートコミュニケーション部 03-6204-7030

三菱地所株式会社 広報部 03-3287-5200

鹿島建設株式会社 広報室報道グループ 03-6438-2557

※Kobenable Steel についてのお問い合わせ

(株)神戸製鋼所 総務・CSR 部 秘書広報グループ 03-5739-6010

以上